牧草と園芸　第72巻第２号（2024年）

雪印種苗株式会社　北海道研究農場　園芸作物・花卉研究Ⅰグループ　早坂　政寛

エダマメ専用品種「サッポロミドリ」、その開発経緯について

１．日本人とエダマメ

夏の風物詩、ビールのお供、高タンパクなダイエット食…エダマメは日本人にとって古くから馴染み深い夏野菜です。具体的にいつからエダマメとして未熟な大豆を食し始めたかは定かではありませんが、江戸時代ではすでに茹でたエダマメを道端で売る「枝豆売り」の記録が残っています。想像するに当時の庶民にとってはファストフードのように親しまれていたのではないでしょうか。各地で栽培していた大豆の一部を早刈りし、エダマメとして収穫していたとされています。あくまで大豆の一用途であったエダマメは、現在では野菜の一つとして認識される様になり、各種苗会社から専用品種が発表され続けています。

雪印種苗㈱はエダマメ開発のパイオニアとしてエダマメ品種の開発・生産・普及に情熱を注ぎ、全国の産地や作型に適した品種を発表してきました。当社にとってエダマメは特別な意味を持つ品目であり、その原点となったのは1974年に発表した「サッポロミドリ」の存在です。本稿ではサッポロミドリ種苗名称登録50周年の節目に、当社とエダマメ、そして「サッポロミドリ」の開発経緯について紹介します。

２．エダマメ“専用”品種を目指して

戦後の復興間もない1950年代後半、当社の上野幌育種場（現：本社）においてエダマメの試験研究がスタートしました。その頃の当社の育種は飼料作物が中心で、得られた知見や技術を園芸作物の開発に応用しようとしている最中でした。当時のエダマメは夏場に収穫が可能な「奥原１号」「早生緑」といった早生の大豆品種が広く利用されていましたが、当時の早生品種は褐毛で莢色が淡く、現在と比べると市場価値は低いものでした（**写真１**）。そこで早生性を有し、白毛・濃緑・大莢と市場価値の高い品種の育成を目標に、当社のエダマメ育種が幕を開けたのです。

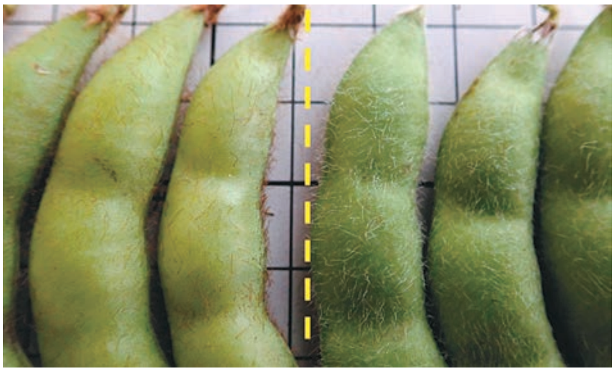


写真１　茶毛種（左）と白毛種（右）

３．開発の難航と転機

当時の試験成績資料からは大豆品種や各地の在来種について細かく特性を調査し、開発目標に沿った育種材料を探索していた様子が伺えます（**写真２**）。サッポロミドリ発表以前にも当社開発の早生品種はありましたが、褐毛で見栄えに優れないなど、目標を十分に満たす品種の開発は難航していま

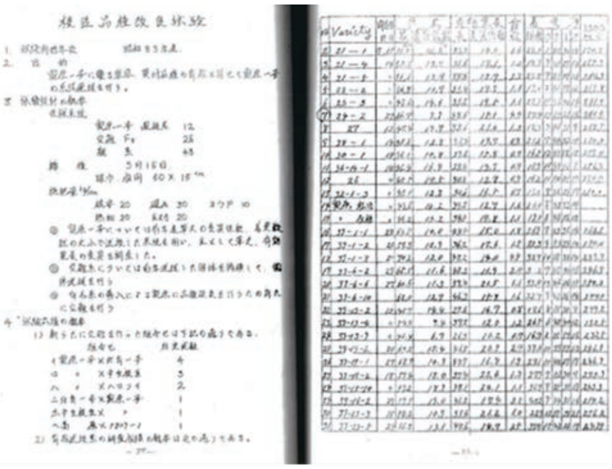


写真２　昭和38年（1963年）の試験成績書

写真３　故・中原忠夫

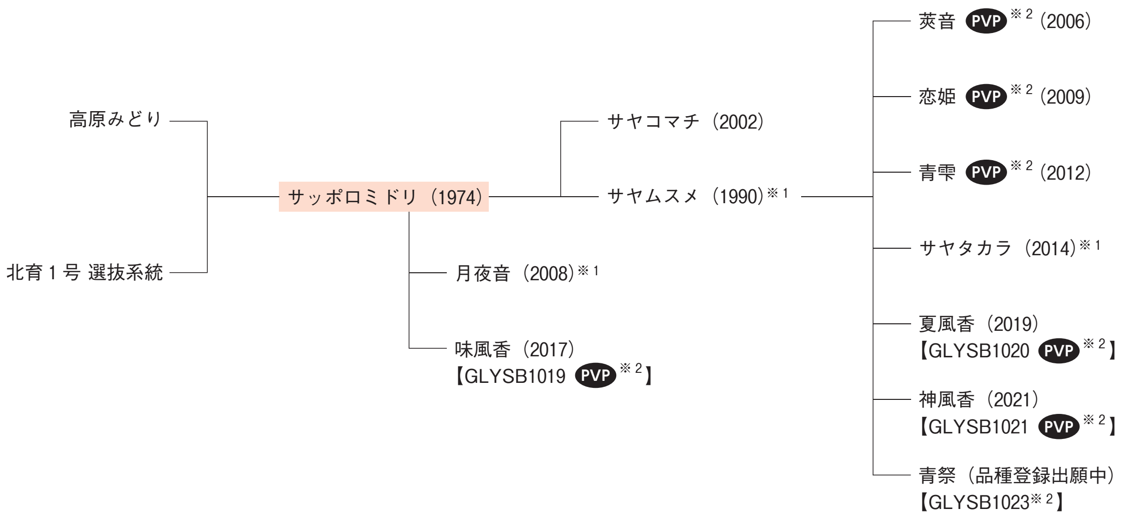
した。そんな中、北海道立農業試験場北見支場（現：北見農業試験場）より大豆品種「北育１号」が発表されます。大豆品種では珍しい白毛の特性を有しており、当社の開発目標にマッチした育種材料でした。そこでエダマメとして食味の良い早生・褐毛の「高原みどり」を母、そして「北育１号」より選抜した系統を父として、後にサッポロミドリが選抜される交配が当社の故・中原忠夫（**写真３**）によって行われます。時は1963年、日本では初の長編アニメ「鉄腕アトム」が放映を開始した年でした。

４．サッポロミドリの誕生

交配後、その後代から目標形質を持つ個体の選抜が中原忠夫により進められました。一般的な早生性、白毛は潜性（劣性）形質であるため、初期世代でどちらの形質も有する個体が現れる確率は低いものでした。加えて大莢で濃緑色、かつ食味に優れた特性も有する個体となると、膨大な数の個体展開と選抜調査が必要とされます。今ほど農業機械が進歩していなかったことを考えると、限られた環境下でこれらを選抜するのは至難の業だったと想像できます。何世代もの選抜と試験、採種を進め、交配から11年後の1974年、ついに「サッポロミドリ」として種苗名称登録されます。当時の早生品種である「奥原１号」並の早生性に加え、白毛で濃緑の大莢、３粒莢の割合が高く、食味に優れるという特性を持った「サッポロミドリ」は夏場に収穫できる早生品種の中でも高い品質が認められ、全国に広く普及していきました。

５．引き継がれるサッポロミドリのDNA

現在当社が販売しているエダマメ品種は17品種、うち11品種は「サッポロミドリ」がルーツとなります（**図１**）。早生エダマメの代名詞となった「サッポロミドリ」をベースに農業特性の改良、付加価値の向上を目的とした開発が、歴代の開発担当者によって行われてきました。より濃緑かつ大莢で市場価値を高めた品種「サヤムスメ」（**写真４**）、食味に選抜重点を置いた早生の茶豆風味品種「味風香（登録品種名 GLYSB1019）」、中早生の茶豆風味品種「夏風香（登録品種名 GLYSB1020）」、一昨年販売を開始した耐暑性品種「青祭（出願名称 GLYSB1023）」もルーツを辿ればいずれも「サッポロミドリ」に繋がります。「サッポロミドリ」を由来とする特性は育種によってその時代に求められる品種として実を結び、最近では2023年に「夏風香（登録品種名 GLYSB1020）」と「青祭（出願名称 GLYSB1023）」が日本



（　）は農産種苗法もしくは種苗法による登録年を示す。
※１　但し、サヤムスメ、月夜音、サヤタカラの（　）は一般販売開始年を示す。
※２　海外持出禁止（農林水産大臣公示有）
本図中の名称は品種名を表す。品種名と別に商品名が設定されている場合は【　】内に品種名を示す。

図１　サッポロミドリを中心とした系譜図（交配の片親を除く）

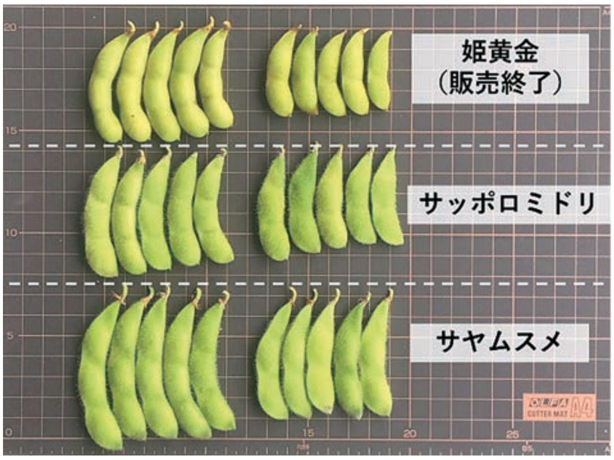


写真４　育種によるエダマメの莢の外観変化（姫黄金はサッポロミドリ発表以前の当社品種）

種苗協会主催の品種審査会でそれぞれ入賞し、評価をいただきました。「サッポロミドリ」そのものも50年の間、生産者からの評価を得て、現在も各地で栽培が続いています。

現在、当社は圃場選抜に加えてDNAマーカーを利用した開発を進めていますが、エダマメとして優れた形質や食味についてはその根原に「サッポロミドリ」があり、今後発表していく品種にもそのDNAが引き継がれていくことでしょう。

6．おわりに

育成された地名「サッポロ」をその名に冠し、発表から50年後の現在でも札幌伝統野菜や冷凍加工用途として皆さまからご愛顧頂いている「サッポロミドリ」。50周年を記念し（**図２**）、2024年野菜カタログや当社ホームページ内の特設サイトでは各地の栽培情報や料理レシピ、期間限定のスイーツ情報など特集しておりますので是非ご覧頂ければ幸いです。

戦後まだ貧しい日本において、日本人の食卓が豊かになっていくことを信じ、エダマメの新しい市場開拓を成した故・中原忠夫と関係者、そして生産者の方々に最大の敬意を払い、当社は今後もエダマメの開発・生産・普及に会社一丸となって尽力していく所存です。

50th Anniversary
エダマメ
サッポロミドリ

エダマメ「サッポロミドリ」の種苗名称登録50周年記念ロゴマークは、莢を円形に配置し50年継続した関係者皆様の輪を表現しました。また渦巻状に多数の莢を配置することで、多くの実りをイメージしています。色は鮮やかな緑で「サッポロミドリ」の特性を表しています。
創業の精神「健土健民」のもとに、これからも皆様から信頼頂けるエダマメ種子の供給を目指し、新しい未来へ向けて進んでいく思いをデザインに込めました。

図２　「サッポロミドリ」50周年記念ロゴマーク